

《資料》

部落解放研究関係文献目録

(一九八五年十月～十二月)

【総記】

- 編集部「部落解放研究関係文献目録(一九八五年四月～六月)」
- (『部落解放研究』四七号、12月)
- (『部落解放』総目次(二二二号～二二七号))
- (『部落解放』二二七号、12月)
- 丹治初彦「(書評)『和島岩吉人権論稿』和島岩吉著」
- (『ひょうご部落解放』二二二号、12月)
- (資料)「解放教育・バックナンバー(188～201号・一九八五年一月号～十二月号)」
- (『解放教育』二〇二号、12月)
- (資料)「『部落問題・調査と研究』総目次 第47号(一九八三年十二月)～第58号(一九八五年十月)」
- (『部落問題―調査と研究』五九号、12月)

【現状】

- 部落解放同盟中央本部「一九八四年部落解放同盟全国部落実態調査から上」
- (『部落解放』二三五号、10月)
- 本田 豊「東京の被差別部落」
- (『解放教育』一九九号、10月)

浜岡政好「84年部落の現状研究の成果と課題」

- (『部落問題研究』八五号、10月)
- 玉岡三造「へぶらく西・東」児童公園が融合の場―本荘市
- (『国民融合通信』一三六号、10月)

《特集》「青年の仕事は今」

- (『部落解放』二二六号、11月)
- 山下 栄・赤井隆史・吉井 猛・西川雅章・島田健吉・岩田千明・中島敏彦「へ全国青年部長座談会」青年の就労実態をめぐって

本誌編集部「ルポ・和歌山の青年を訪ねて―杭ノ瀬、湯浅」  
 浜岡直夫・谷中津芳・中川政喜・武田敬真・武田誠雄「へ座談会」食べていくのに一生懸命―高知・漁村部落の青年たち

北 善之・松浦啓昭「へ私と仕事」反差別と仕事のジレンマ  
 のなかで―解放運動の成果を後輩へ」

《特集》「自立と融合をめざして」

- (『月刊部落問題』一〇八号、11月)
- 塩崎賢明「日本人の住居観と住宅・まちづくりの課題」

川島芳雄「同和地区の生活と福祉—A地区における生活保護の現状と今後の課題」

《東京の被差別部落》

(『部落解放』二二七号、12月)

本田 豊「ルポ・東京の被差別部落」

部落解放同盟中央本部「1984年部落解放同盟全国部落実態調査から」(同右)

荻田哲男「今日の部落差別の実態と同和行政」  
『部落解放』二三八号、12月

《特集》「東日本の被差別部落」

(『東京部落解放研究』四六号、12月)

東京部落解放研究編集委員会「特集にあたって」

水木幸夫「(ルポ)津軽の被差別部落」

佐藤泰治「(講演)新潟県下の部落差別の現実と歴史的課題」

小池重市「(第17回東日本研究会分科会レポートより)湯

の沢「差別の歴史」現地レポート」

《特別企画・現代資本主義と部落差別》

(『ひょうご部落解放』二二号、12月)

木村吾郎「皮革工業の諸問題」

日野謙一「農村部落の環境問題と部落差別(上)」

石元清英「戦後日本農業の展開と農村部落(中)」

山本真一「ルポ・吉舎町海田原部落を訪ねて」

(『部落解放ひろしま』三三号、12月)

《特集》「自立と融合をめざして」

(『月刊部落問題』一〇七号、10月)

杉之原・内田・西脇ほか「絶対こは自慢できる—公営住宅

『分散入居』の10年」

山口 明「岐阜県美濃市の同和地区視察記」

千草深一「『ドーン計画』の町・吉備町を訪ねて」

村越末男「自治体政策研究第20回全国集会・第9分科会差別と人

権—高めよう人権意識・なくそう差別」

(『地方政治』三〇七号、10月)

小村和義「(動向)〈行政〉『同和行政実態調査結果報告書』刊

行なへ」

(『部落』四六四号、11月)

塩崎賢明「ドーン計画をみて」

(『月刊部落問題』一〇八号、11月)

【運動】

部落解放同盟兵庫県連南但地協・闘争委員会「差別もみ消し工作

をはねのけて—兵庫県養父郡広域行政職員差別事件糾弾闘争」

(『部落解放』二二五号、10月)

土方 鉄「狭山特別抗告棄却決定を批判する—③筆跡について」

(同右)

大谷光真「部落解放基本法制定を願って」

(『社会啓発情報』二七号、10月)

浄土真宗本願寺派「部落解放基本法制定をめざして①—百万人署

山本博史「(現地報告)『橋を架ける』運動のひろがり」

(『部落』四六五号、12月)

荻田哲男「今日の部落差別の実態と同和行政」

(『部落解放』二二八号、12月)

小林 茂「同和行政入門」(同右)

《特集》「大規模部落における同和对策事業の現状と課題」

(『部落』四六五号、12月)

西脇忠之・宮木 剛・高田 徹・駒井順治・杉之原寿一「(座談会)大規模都市部落における同和行政と部落解放運動のあり方」

山本善積「住民本位のまちづくりをめざして—京都・崇仁地区の改良と土地利用」

《資料》「地対法の同和行政のあり方についての全解連の見

解」

木戸季市「(動向)〈行政〉総務庁の『地域啓発等実態把握』調

査について」(同右)

【行政】

磯村英一「選択が迫られる国の同和对策」

(『部落解放』二二五号、10月)

渡辺久丸「1984年同和行政研究の成果と課題」

(『部落問題研究』八五号、10月)

田上和儀「1986年度同和对策関係予算要求をみる」

(『部落』四六三号、10月)

名を目標に」(同右)

松浦利尚・中山英一・溝口明秀・清水延一「身元調査規制条例を

どう受けとめるか」(同右)

全国部落解放運動連合会「地対法後の同和行政のあり方について

の全解連の見解」

(『解放の道—理論・政策・資料版』二二号、10月)

全国部落解放運動連合会「解同」の無法な『部落解放基本法』

に反対する」(同右)

重岡式典「広島県議会議長による『解同批判』—その後」

(『部落問題—調査と研究』五八号、10月)

山内康雄「八鹿・朝来暴力事件控訴審のたまたか」

(『月刊部落問題』一〇七号、10月)

《特集》「あつご差別事件を闘って」

(『荆冠旗』十四号、大阪郵便局連合部落解放研究会、10月)

(資料)「近畿郵政局の回答書」

土方 鉄「狭山特別抗告棄却決定を批判する—④死体をめぐる問

題について」(『部落解放』二二六号、11月)

大賀正行「基本法」と部落解放運動九〇年代への展望」

(『解放教育』二〇〇号、11月)

村崎勝利「地対法後の『全解連見解』の政策的優位性と実践的課

題—『見解』の学習と普及にあたって」

(『解放の道—理論・政策・資料版』二二号、11月)

国民融合をめざす部落問題全国会議「第十一回総会活動報告・活

動方針」(『国民融合通信』一三七号、11月)

山内康雄「八鹿・朝来暴力事件控訴審第一回公判と今後の展望」  
 『部落』四六四号、11月  
 成沢栄寿「国民融合全国会議の十年」(同右)  
 山中一美「(動向)〈運動〉和歌山県連独自の部落解放要求対政  
 府交渉」(同右)

《特集》「『地対法』後の諸問題」

(『部落問題論』十号、11月)

杉之原寿一「『地対法』期限切れと同和行政」

真田 是「住民の自立」

渡辺久丸「差別規制法とプライバシー保護—大阪府興信所条  
 例を中心として」

兵庫県人権共闘会議事務局「八鹿・朝来暴力事件控訴審第一回公  
 判開く」(『月刊部落問題』一〇八号、11月)

瀬川負太郎「(投稿)少し異議あり」

(『月刊部落問題』一〇八号、11月)

高野真澄「部落解放基本法」をめぐる論議について(二)

(『部落解放研究』四七号、12月)

辻 暉夫「私を変えてくれたもの—メイの結婚差別から」

(『部落解放』二二七号、12月)

土方 鉄「狭山特別抗告棄却決定を批判する—⑤足跡について」

(同右)

上杉佐一郎「同対審答申20年と部落解放」

(『部落解放』二三八号、12月)

友永健三「部落解放基本法の制定をめざして」(同右)

北口末広・在閩秀和「部落差別身元調査等規制条例の制定と課  
 題」(同右)

山上益朗「狭山特別抗告棄却決定批判と今後の方向」(同右)

磯本恒信「被爆40年・戦争と差別の撤廃を願って」(同右)

部落解放同盟大阪府連浪速支部・生江支部・高橋正人「部落解放  
 と周辺地域共闘」(同右)

山中多美男「あいつく差別事件と人権草の根運動」(同右)

友永健三・身元調査おことわり大阪連絡会・村越末男・畑同和地  
 区人材雇用開発センター・大阪企業同和问题推進連絡協議会

「『部落地名総鑑』発覚10年」

(『社会啓発情報』二八号、12月)

部落解放基本法制定要求国民運動福岡県実行委員会「部落解放基  
 本法制定をめざして②—広範な県民の結集を」(同右)

岡本 茂「連続差別電話事件の経過と課題」(同右)

青野朝夫「差別電話を受けて—自分自身の生き方が問われる」  
 (同右)

部落解放同盟新潟県連「(資料)11・28神林村差別行政糾弾裁判  
 闘争勝利決起集会」

部落解放同盟関東ブロック「基調報告」

(『東京部落解放研究』四六号、12月)

《特集》「部落解放基本法の制定めざして」

(『部落解放ひろしま』三三号、12月)

時本 悟「『部落解放基本法』制定の闘い」

上田一雄「広島県北部同和地区実態調査を終えて」

宮原勝幸「仕事保障の新しい試み雇用開発システムについ  
 て」

〈平和・人権擁護・部落解放基本法制定要求全国行進に参加  
 して〉

川崎 勝「一、(闘い)は拡がっている」

割石忠典「二、名実ともに国民運動として発展」

立川昭二郎・本誌編集部「(対談)この人と(あらためて)民  
 主義を考える」

小森龍邦「(連続解放講座)Ⅲ)勝利への道程—木山『要請書』  
 差別糾弾闘争」(同右)

内田正志「(動向)〈研究〉京・阪・神三都市部落研・研究交流  
 集会第一〇回を迎え、神戸で盛大に開かれる」

(『部落』四六五号、12月)

村崎勝利「(動向)〈運動〉全解連、八五全闘第二次中央行動を  
 展開」(同右)

丹波正史「人間の発達保障をめざす運動論と自立」

(『部落問題—調査と研究』五九号、12月)

《特集》「八鹿・朝来暴力事件と但馬」

(『月刊部落問題』一〇九号、12月)

兵庫県人権共闘会議事務局「元津事件民事訴訟判決—刑事控  
 訴審緒戦で大きな勝利」

(資料)「元津事件第一審判決(抜粋)」

吉岡良治「八鹿・朝来事件と意岐部事件—一審判決の是正と  
 完全勝利をめざして」

【解放理論】

《特集》「一九八四年部落問題研究の成果と課題」

(『部落問題研究』八五号、10月)

秋定嘉和「部落問題と学際学」(『こぼる』九五号、11月)

渡辺俊雄「第七回全国部落解放研究者集会歴史・理論部門会議  
 (報告)」(『部落解放研究』四七号、12月)

渡辺俊雄「部落解放理論入門」(『部落解放』二三八号、12月)

大賀正行「部落解放理論—『国民融合論批判』」(同右)

栃崎博孝「『21世紀をめざす部落解放の基本方向(案)』の学習  
 のために」

(『解放の道—理論・政策・資料版』二三号、12月)

(資料)「『基本方向(案)』の用語解説」(同右)

【解放教育】

中尾 貫「追悼山北博—山北先生との出会いと『同和』教育」

(『ながさき部落解放研究』十一号、10月)

山北 博「(第36回全国同教研究大会報告)わたしはアパートの人  
 じゃなかもん」(同右)

《特集》「東日本の差別と教師たち」

(『解放教育』一九九号、10月)

第37回全国同教大会地元実行委員会「親や子の願いが生きた学  
 校—東京の解放教育・現状と課題」

浅名良男「六年間の歩みから」

- 桑原敦子「K子とともに」  
 荻原幸助「村に足をはこんで四年」  
 中野市立日野小学校「地域を握りおこす」  
 雁部桂子「木下川を学習する」  
 酒井清治・野口 実・高田和正・中山英一・高橋 誠・中村 祐三「〈座談会〉東日本の解放教育運動―その現状から課題をどう構想するか」  
 中野陸夫「へある視点」同和教育の実践・交流をより深めるために」(同右)  
 中村祐三「ヘルポ・教育現場・11」だれが教育をつくりだすのか(その1)―三重・伊賀の青年と子どもたち」(同右)  
 梅田 修「同和教育研究をめぐる今日の諸問題」  
 (『部落問題研究』八五号、10月)  
 (『部落』四六三号、10月)  
 《特集》「現代における同和教育とはなにか―大都市の場合」  
 玖島慶子・田部義之・八木満喜男・杉島 洋・山本敏實「〈座談会〉部落問題が提起する今日の教育的課題―広島市福島町からの報告」  
 岸本裕史「学力回復のために」  
 嶋津良夫「〈現地報告〉群馬における就職差別撤廃のたたかい」(同右)  
 東上高志「杉山 守君 ありがとう」(同右)  
 中谷隆亮「〈部落問題との出会い〉貴重な友人たち」(同右)  
 小牧 薫「(動向)〈教育〉と歌山の解放運動・同和教育に学ん」  
 木村光夫「〈部落問題との出会い〉四十にして」(同右)  
 村上 保「臨教審答申と『同和教育』―いまこそ民主主義と人権の教育を」  
 (『部落問題論究』十号、11月)  
 梅田 修「小川太郎の生活指導論の探求『八尾中学事件』にふれて」(同右)  
 若林宏子「子どもの発達と親の自立」  
 (『月刊部落問題』一〇八号、11月)  
 村橋 端「『はじめ』克服のために」  
 (『月刊』の子も伸びる』一〇三号、11月)  
 東上高志「〈今月の部落問題・同和教育〉正しい促進教育を③―促進教育の問題点」(同右)  
 前川 実「第七回全国部落解放研究者集会教育・地域部門会議(報告)」(『部落解放研究』四七号、12月)  
 渡久山長輝「『臨教審』と教育改革」  
 (『部落解放』二三八号、12月)  
 鈴木祥蔵「同和保育の歴史と課題」(同右)  
 米津 進「同和教育入門―体験を中心に」(同右)  
 坂本三好「兵庫部落出身教職員の会だより④―『同和教育』実践アンケートを集約して」  
 (『ひょうご部落解放』二二二号、12月)  
 橋爪隆昌「解放教育と基本法制定」  
 (『部落解放ひょうご』三三三号、12月)  
 稲田勝幸「『同和』教育のイメージの転換を求めて」(同右)

- だ歴教協37回大会」(同右)  
 東上高志「〈今月の部落問題・同和教育〉正しい促進教育を②―岸本・藤原氏の仕事と同和教育」  
 (『月刊』の子も伸びる』一〇二号、10月)  
 福地幸造「生活綴方と解放教育―子どもの生きる土合から」  
 (『新日本文学』四五七号、10月)  
 森 祐三「『開け心が怒ならば』と大学生」  
 (『部落解放』二二六号、11月)  
 小沢有作「『地域からの教育改革』(大阪の解放教育の点検と再構築)を読んで」(同右)  
 《特集》「今、漂流する時代に立つ―解放教育90年代への展望」  
 (『解放教育』二〇〇号、11月)  
 鈴木祥蔵「解放教育二〇年とその課題」  
 田中一郎・小森龍邦・寺澤亮一・高木仁三郎・福地幸造「解放教育に期待する」  
 中野陸夫「同和教育理論の検討に関する覚書」(同右)  
 佐藤三郎「図書紹介『地域からの教育改革』」(同右)  
 中村祐三「だれが教育をつくりだすのか(その2)―三重・伊賀の青年と子どもたち」(同右)  
 部落解放同盟長野県連「長野の大自然に集う―部落解放第四回全国子ども会集会」(同右)  
 (資料)「全国子ども会集会の目標」(同右)  
 石田眞一「本棚・岐路に立つ同和教育」  
 (『部落』四六四号、11月)  
 《特集》「学力へのたたかい最前線」  
 (『解放教育』二〇二号、12月)  
 佐藤三郎・上田正勝・浜根一雄・戸塚 廉「学力への視点」  
 森 実「『解放の学力』と『学力実態調査』」  
 大國小学校同和教育部「『口をモガモガしてたけど……、九九がいえたよ』―大國小・促進指導のとりくみ」  
 松本郁夫「『解放の学力』をつつたい」  
 小田和代「つらいのは、わたしだけじゃないんだ」(編集部)「わが生涯、わが学力」  
 長岡義幸「子どものなかの学力像」  
 木下繁弥「学力保障―その今日的段階と課題」  
 喜多一夫「傷ついた生徒とともに授業を蘇らせたい(下)―量の文化を共に学ぶ」(同右)  
 中村祐三「ヘルポ・教育現場・13」誇りうる教育をどう構築するか(その1)―大阪・長橋小学校の歴史と生活に立って」(同右)  
 福江俊喜「末武中への暴力的『糾弾』問題・その後のたたかい」  
 (『部落』四六五号、12月)  
 大谷猛夫「(動向)〈教育〉と東京の同和教育」(同右)  
 田上和儀「〈部落問題との出会い〉『橋のない川』との出会いが」(同右)  
 大森久雄「県同教材『ほのお』の問題点」  
 (『部落問題―調査と研究』五九号、12月)

東上高志「へ今月の部落問題・同和教育」正しい促進教育を(4)あるとくみから」  
〔『月刊』の子も伸びる』一〇四号、12月〕

【人権】

《特集》「部落の『障害者』の生活と闘争」  
〔『部落解放』二三五号、10月〕

北山誠一・平沢 徹・楠 敏雄・中東政富・松岡 昇・西川 雅章・藤本 学「へ座談会」『障害者』との共生を求めよう」

山下栄一「国際障害者年と『障害者』解放の課題」

東野正尚「部落の『障害者』の生活実態と課題」

部落解放同盟奈良県連合会生活福祉対策委員会「共に育て、そして闘おう」

藤林晋一郎「大阪における部落の『障害者』のとりくみ―和泉と浪速」

「障害」児の公立高校入学を実現する会「『私も高校へ行きたい』―Kさん、Tくんを公立高校へ大阪旭区での取り組み」

徐 正禹「ひとさし指のたたかち」

〔『社会啓発情報』二七号、10月〕

浅野健一「『犯罪』報道の犯罪」(同右)

竹内一夫「アメリカの平等雇用」(同右)

鎗田英三「ナチス体制におけるユダヤ人への差別・迫害」

〔『ながさき部落解放研究』十一号、10月〕

島比呂志「その後のこと―転換期に直面するらい園の内外」

〔『解放教育』一九九号、10月〕

趙根在「へハンセン病の同胞たち・7」撮る」(同右)

飯家知之「イギリスにおける一九八四年データ保護法の成立」

〔『法律時報』五七卷十一号、10月〕

鎌田定夫「核廃絶へ連帯する世界平和都市市長会議」

〔『軍縮問題資料』五九号、10月〕

楠原 彰「燃え上がる南アフリカーアパルトヘイトの背後にあるもの」〔『新日本文学』四五七号、10月〕

《特集》「国連婦人の10年と今後の課題」

〔『都市問題研究』三七卷十号、10月〕

坂本宗子「大阪市における女性の現状と施策―国連婦人の10年」の取組みを中心に」ほか

千田是也「差別・ファシズム・戦争」

〔『部落解放』二三六号、11月〕

高崎隆治「沖縄問題と教育」

〔『解放教育』二〇〇号、11月〕

楠原 彰「南北問題と教育」(同右)

山下栄一「『障害児』問題と教育」(同右)

星野安三郎「国家機密と国民の知る権利―六・二一市民集会から」(同右)

伊瀬知徹「臨教審第一次答申と障害児教育」(同右)

松元幸一郎「へ奄美の夜明けのために」四度の差別を受けて」

〔『月刊』の子も伸びる』一〇三号、11月〕

三宅信一・明神 勲・小川隆吉・小川早苗・田中美穂・柿木里枝

「アイヌ差別と教育の諸問題」〔『釧路論集へ北海道教育大学釧路分校研究報告』十七号、11月〕

藍谷邦雄「連載3・日本の刑務所の実態と刑事施設法案の問題点―人間的処遇法たる監獄法のために」

〔『地方政治』三〇八号、11月〕

《特集》「国際人権規約発効六周年にあたって」

〔『部落解放研究』四七号、12月〕

友永健三「国際人権規約発効6周年にあたって―成果と課題」

和田幹彦「国連人権活動の現状と課題―第三八回国連人権小委員会審議概要」

久保田洋「市民的及び政治的権利に関する国際人権規約選択議定書による通報手続概説」

テオドル・メロン「あらゆる形態の人種差別撤廃に関する国際条約の意味と範囲」

佐藤典子「ラテン・アメリカにおける人権(2)―インディオについて」(同右)

部落解放研究所人権部会「人種差別撤廃条約第四条・七条の実施に関する研究報告(同)」(同右)

中村清一「第七回国連部落解放研究者集會人権・行政部門會議(報告)」(同右)

杉谷依子「朝鮮を正しく教える―副読本『サラム』について」

〔『部落解放ひろしま』三三号、12月〕

山田照美「(書評)『兵庫と朝鮮人』在日本朝鮮人科学者協会兵庫支部兵庫朝鮮関係研究会編」(同右)

前原裕典「住民基本台帳法の改正と国勢調査について」

〔『部落解放ひろしま』三三号、12月〕

〔『部落解放』二二七号、12月〕

徐正禹・李敬宰「へ特別アッピル」指紋捺捺制度撤廃にむけて」〔『部落解放』二二八号、12月〕

宮崎繁樹「国連40年と平和・人権」(同右)

森井 障「冤罪と再審」(同右)

楠 敏雄「障害者差別の現状と課題」(同右)

清水澄子「国連婦人の10年世界会議と女性解放」(同右)

徐正禹・李相鶴・李敬宰・大阪市職員労働組合「在日韓国朝鮮人差別の現状と課題―指紋捺捺制度撤廃のとりくみ」(同右)

世界人権宣言大阪連絡会議「平和と人権―国連創設四〇周年」

〔『社会啓発情報』二八号、12月〕

土井たか子「国連婦人の10年・ナイロビ会議」

〔『ひろこ部落解放』二二二号、12月〕

岡部一明「マイノリティシリーズ・少数者としてアメリカを生きる④―公民権法とアファーマティブ・アクション」(同右)

小川洋子「(書評)『飛鳥・その青い丘』千坂長著」(同右)

加瀬都貴子「(書評)『捜査弁護の技術』丹治初彦著」(同右)

中村哲夫「(書評)『孫文と神戸』陳徳仁・安井三吉著」(同右)

山田照美「(書評)『兵庫と朝鮮人』在日本朝鮮人科学者協会兵庫支部兵庫朝鮮関係研究会編」(同右)

前原裕典「住民基本台帳法の改正と国勢調査について」

〔『部落解放ひろしま』三三号、12月〕

【社会啓発】

- 下垣桂二「アパルトヘイトをささえる『名誉白人』」(同右)
- 宮 淑子「ある視点」『不純なまなざし』
- 『解放教育』二〇一号、12月)
- 森田洋司「アメリカの子どもたち・その1」揺れ動くマイノリティの就学保障I」(同右)
- 趙根在「ハンセン病の同胞たち・8」闇の中のこだま」(同右)
- 品川信良「核戦争防止国際医師会議(IPPNW)のノーベル平和賞受賞を喜ぶとともに」『軍縮問題資料』六一号、12月)
- 藤田秀雄「インタビュ―中平健吉弁護士に聞く―現代の人権感覚」『月刊社会教育』三四九号、12月)
- 星野修美「在日外国人の学習権を守るために―在日韓国・朝鮮人教育について」(同右)
- 吉川 徹「人をつなげる地域の力」(同右)
- 東京都立大学社会教育ゼミ「海外の青年教育へその1」国際青年年の背景と課題」(同右)
- 藤田秀雄「学習権宣言―第四回ユネスコ国際成人教育会議の宣言」(同右)
- 大谷恭子「ヨーロッパ監獄の実態と刑事施設法案の国際水準」『地方政治』三〇九号、12月)
- 中村 洸「私の書評」世沢雄司著『条約の国内適用可能性』―その「SELF-EFFECTING」な条約に関する一考察」『書齋の窓』三五〇号、12月)

- (資料)「開館準備すむ大阪人権歴史資料館」
- 『部落解放』二三五号、10月)
- 森口兼二「書評」地域における人権啓発の根運動」
- 『社会啓発情報』二七号、10月)
- 杉浦明平「出会い・忘れ得ぬ人びと」(同右)
- 大森龍三「自治体職員同和研修の二方法」(同右)
- (資料)「高槻市における人権啓発のあり方について(提言)」(同右)
- 野口道彦「現在の視点から①」マートンの4つのタイプと部落解放のてだて」『こべる』九四号、10月)
- 長野 崇「差別意識はどこから―その歴史および表象に関する一考察②」『ながさき部落解放研究』十一号、10月)
- 村上博光「83年・84年の社会啓発・社会同和教育研究」『部落問題研究』八五号、10月)
- 中野 功「(動向) <文化>映画『あしたに向かって』を見て」『部落』四六三号、10月)
- 東上高志「<講座>これからの社会啓発⑥」啓発内容」(同右)
- 野口道彦「現在の視点から②」親子のはざま」
- 『こべる』九五号、11月)
- 『特集』現代における社会同和教育とはなにか」
- 『部落』四六四号、11月)

- 東上高志「<提案1>法以後を見通した社会同和教育―トリオ論」
- 井上英之「<提案2>法以後を見通した啓発活動―パートナー論」
- 高橋邦男「<報告1>啓発から学習運動へ」公民館の実践」
- 石沢由起夫「<報告2>京都・美山町におけるとりくみ」公民館・社会教育関係団体」
- 鈴木勉市「<報告3>共同地区懇のとりくみから」同推協の実践」
- 竹本豊重「<報告4>地区内におけるとりくみ」隣保館の実践」
- 村上博光「<総括>社会教育全体でどうとりくむか―基本視点」
- 神戸市同和問題市民啓発専門委員会「<資料>市民啓発のあり方についての意見」
- 東 寿隆「(動向) <教育>第二五回社会教育研究全国集会(大阪)の開催」(同右)
- 東上高志「<講座>これからの社会啓発⑦」啓発内容と教材―①人権と差別」(同右)
- 出口俊一「職場の合意と同和教育」
- 『部落問題論究』十号、11月)
- 木村光夫「<第25回社会教育研究全国集会報告>分科会からの報告第一分科会 差別・人権問題と社会教育」

- 『月刊社会教育』三四八号、11月)
- 村上博光「<課題別集会1>人権と社会教育」(同右)
- 『第16回部落解放夏期講座』
- 『部落解放』二三八号、12月)
- 中山英一「市民啓発の歴史と課題―長野県を中心に」香野貞人「企業と部落問題―研修主題の設定」
- 加藤敏明「社会啓発の目標と原理」
- 『社会啓発情報』二八号、12月)
- 樹資生堂「同和問題研修の現状と課題」(同右)
- 山上徹二郎「エキニメンタリー映画製作現場から」(同右)
- 野口道彦「現在の視点から③」『どんな私』と、一生付き合うのか」『こべる』九六号、12月)
- <同和問題の啓発活動シンポ>
- 『国民融合通信』一三八号、12月)
- 杉之原寿一「シンポジウムの開催にあたって」
- 柄崎博孝「部落における啓発活動」
- 長谷川善計「社会啓発を再検討するために」
- 谷弥兵衛「奈良県の啓発活動」
- 大同計五「PTAにおける啓発活動のあり方と子どもたちの民主的な意識、道徳の形成に関わる地域、家庭の課題」
- 東上高志「<講座>これからの社会啓発⑧」啓発内容と教材―②歴史と運動」
- 『部落』四六五号、12月)
- 柿元 清「(動向) <文化>『なごまりの今』―滋賀県研修用スライド」(『部落』四六五号、12月)

《特集》「人権感覚、生きる力を育てよう」  
 『月刊社会教育』三三九号、12月  
 平野一郎「へかがり火」上見て暮らすな、下見て暮らせ」  
 小川利夫「『人権としての社会教育』の追究」  
 木村光夫「人権学習にとりくむために」  
 大上弘子「『識字』とわたし」

【文化・思想】

松永俊夫「円通寺人形芝居との出会い―部落解放第十七回都研集会を終えて」(『部落解放』二二五号、10月)  
 江藤巧也「連載・差別者の群れの中に―最終回」  
 (『解放教育』一九九号、10月)  
 八橋 卓「(本棚)表現の自由と『差別用語』」  
 (『部落』四六三号、10月)  
 北川鉄夫「へうの目たかの目 7<<車 善七の由来」(同右)  
 石田眞一「部落の青春―戦場の差別」  
 (『月刊』の子も伸びる』一〇二号、10月)  
 多田恵美子「へ連載 歌い継ぐ部落の伝承歌 第五回<<荷もち唄」(『部落解放』二二六号、11月)  
 おかだいちえ「背中」(『解放教育』二〇〇号、11月)  
 北川鉄夫「へうの目たかの目 8<<死とその前後」  
 (『部落』四六四号、11月)  
 石田眞一「部落の青春―母からの便り」  
 (『月刊』の子も伸びる』一〇三号、11月)

八木晃介「差別と表現―批評『表現の自由と『差別用語』』」  
 (『部落解放』二二七号、12月)  
 沖浦和光「賤民芸能としての能・狂言の系譜―芸能は、なぜ賤民層によって担われたのか(その四)」(同右)  
 《創る―みんなでつくる文化のページ》(同右)  
 大阪・西成よみかき教室「へ詩<<私をみつめる」  
 松永俊夫「五回の反差別映画祭を終えて」(同右)  
 寺本 知「部落解放運動と私」(同右)  
 北川鉄夫「へうの目たかの目 9<<三冊の本のめぐりあひ」  
 (『部落』五五五号、12月)  
 石田眞一「へ部落の青春<<敗戦の日」  
 (『月刊』の子も伸びる』一〇四号、12月)

【宗教】

町田宗夫「プリンストンからナイロビへ―宗教者としての反省の歩み」(『部落解放』二二五号、10月)  
 柏原祐泉「宗教と部落問題」(『部落解放』二二八号、12月)  
 望月廣三「親鸞の解放運動論―その一視点」  
 (『ひょうご部落解放』二二二号、12月)  
 川元祥一「民衆信仰の革命と反革命―被差別部落の基礎』を誌んで」(『解放教育』二〇一号、12月)

【通史】

鈴木 良「社会史研究と部落問題」

(『部落問題研究』八五号、10月)  
 石田眞一「高橋嶺一さんを偲んで」(『部落』四六三号、10月)  
 藤谷俊雄「連載 二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史」  
 (29)「人民戦線運動」(同右)  
 山口 圭「忘れぬうちに・思い出(その6)―松本治一郎のことごと」(『部落問題―調査と研究』五八号、10月)  
 岡あきら「荆冠記 第五部『激流』第一章」(同右)  
 藤谷俊雄「連載 二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史」  
 (30)「政治運動の停滞」(『部落』四六四号、11月)  
 落合重信「へ歴史よもやま話<<杉原行きと写真」  
 (『月刊部落問題』一〇八号、11月)

奈良本辰也「へ上杉佐一郎HOT SPOT<<戦後・部落解放運動あれこれ」(『部落解放』二二七号、12月)  
 中尾健次「被差別部落の歴史」(『部落解放』二二八号、12月)  
 渡辺俊雄「(書評)証言の魅力をひきだした書―福田雅子著『証言全国水平社』」(『社会発露情報』二二八号、12月)  
 本田 豊「へ部落史を歩く<<街道と部落―府中市」  
 (『東京部落解放研究』四六号、12月)  
 本田 豊「(連載)被差別部落形成伝承譚(1)先祖様は山の番付きをしてた」(同右)  
 山本源之助・田宮 武「へ聞き書き<<部落解放の人たち②」  
 (『ひょうご部落解放』二二二号、12月)  
 古田健二「へ文化のひろは<<研究」とは何か―壬申戸籍の公開運動について」(『部落解放ひろ』三三三号、12月)

藤谷俊雄「連載 二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史」  
 (31)「日中戦争迫る」(『部落』四六五号、12月)  
 豊田秀男「(本棚)荆冠記 第1・2・3部」(同右)  
 山口 圭「忘れぬうちに・思い出(その7)―松本治一郎のことごと」(『部落問題―調査と研究』五九号、12月)  
 岡あきら「荆冠記 第五部『激流』第二章」(同右)  
 成澤栄寿「へふんすい<<出会」  
 (『月刊部落問題』一〇九号、12月)  
 落合重信「へ歴史よもやま話<<出右郡の部落起源資料」(同右)

【近代】

山路興造「近世に生きる人びと5 千秋萬歳」  
 (『こへる』九四号、10月)  
 《近世の被差別部落》  
 (『ながさき部落解放研究』十一号、10月)  
 姫野順一「皮屋町乙名龍蔵の身分制度との闘い―遊女吉川身請事件と長崎立ち戻り潜入事件」  
 岡田尚弘「上五島のカトリック地区を訪ねて」  
 高島典夫「へ史料紹介<<諫早藩日記―被差別部落史(三)」  
 高橋 啓「近代『部落』史研究の成果をめぐって」  
 (『部落問題研究』八五号、10月)  
 西木浩一「へ部落の生活史34<<武州下和名の祭礼興行」  
 (『部落』四六三号、10月)  
 調査研究所研究部会歴史(近代)『史料解説』再興常福寺記

- 用留(一) (『部落問題—調査と研究』五八号、10月)
- 前 圭一「穢多身分の芝錢徴収権をめぐる出入り—嘉永三(一八五〇)年大和の一事例から」
- (『月刊部落問題』一〇一号、10月)
- 芳賀 登「近世に生きる人びと6 野非人」
- (『こへる』九五号、11月)
- 木下 浩「部落の生活史35」幕末信越境山村の穢多」
- (『部落』四六四号、11月)
- のびしょうじ「兵庫県部落史研究の課題—前近代の場合」
- (『兵庫史学』七十一号、11月)
- 大熊哲雄「もう一つの『七分の一の命事件』—幕末、東上州におけるある差別事件」(『こへる』九六号、12月)
- 岡本良一「近世に生きる人びと7 履物直し」
- (『こへる』九六号、12月)
- 中野美智子・頭土倫典「美作津山藩被差別部落関係資料(2)」
- (『岡山部落解放研究所紀要』三三号、12月)
- 調査研究所研究部会歴史(前近代)「(史料解説)用留(二)」
- (『部落問題—調査と研究』五九号、12月)
- 【近現代】
- 小山仁示「京都の部落史6 史料近代1」を読んで」
- (『こへる』九四号、10月)
- 竹永三男「近・現代における部落問題の歴史的研究の成果と課題」(『部落問題研究』八五号、10月)

- 後藤正人「(史料紹介)角田県の草場廃止令撤回と白河県・若松県の行刑負担有償化同」(『月刊部落問題』一〇七号、10月)
- 鈴木裕子「婦人水平運動史論覚え書(五)」
- (『部落解放』二二六号、11月)
- 大森久雄「(動向) (研究)明治期の部落問題・備作平民会をめぐって—岡山で第二回夏期研究会」
- (『部落』四六四号、11月)
- 後藤正人「(資料紹介)明治十四年四月十四日付の美学社系和歌山日日新聞」(『部落問題論究』十号、11月)
- 佐々木隆爾「(書評)鈴木良著『近代日本部落問題研究序説』」
- (『月刊部落問題』一〇八号、11月)
- 西岡 智「戦後大阪の部落差別の実態と行政闘争」
- (『部落解放』二二八号、12月)
- 村越末男「部落解放運動史入門」(同右)
- 直原弘道「兵庫県の解放運動と前田平一 そのⅢ」
- (『ひょうご部落解放』二二号、12月)
- (資料)「(研究)部落解放史資料Ⅲ 山本正男著作集(三)」
- (『部落解放ひろしき』三三号、12月)
- 馬原鉄男「(本棚)証言・全国水平社」
- (『部落』四六五号、12月)
- 青木孝寿「(本棚)近代『部落史』研究文献目録」(同右)
- 鈴木正幸「近代天皇制と部落差別補論—小林末夫氏の近業によせて」(『月刊部落問題』一〇九号、12月)
- 滋賀県同和問題研究所「滋賀県における戦後部落問題年表(草

- 稿)「
- (『同和問題研究—滋賀県同和問題研究所紀要』二二号、12月)
- 小林文広「地方融和政策をめぐる一考察」
- (『北陸歴史研究会報』二〇号、12月)

あらゆる角度から部落問題をとらえた初の総合事典

# 部落問題事典

部落解放研究所編

B5判1,100頁上製函入  
定価22,000円

発売記念特別定価20,000円  
(特価期限'86年10月31日)

- さまざまな分野から部落問題に光をあてる  
部落問題の歴史的究明はもとより、現代の部落差別を、住環境・福祉・保健・産業・労働・教育・人権擁護・啓蒙・文化・宗教・マスコミ・行政など、さまざまな分野から光をあてる。
- 部落問題研究の今日的水準を反映  
八年にわたる編集作業と編集委員会の徹底した討議を経て厳選された二四三五項目を、各分野の第一線で活躍する四五七人が執筆。
- 世界と日本の基本的な人権事典として  
内外の差別問題を簡潔に解説。世界と日本の基本的な人権事典の性格も兼ね備。
- 引きやすい小項目中心、五十音順配列  
項目は小項目中心で、五十音順配列。必要に応じて大・中項目を設け詳説。
- 項目分類表・年表・資料  
全項目を分野別に分けた項目分類表、古代から現代までの部落問題総合年表、部落問題を理解するうえで不可欠の資料等を収録。

(社)部落解放研究所

大阪市浪速区久保吉1-6-12  
☎06(568)1300 振替 大阪7-13183